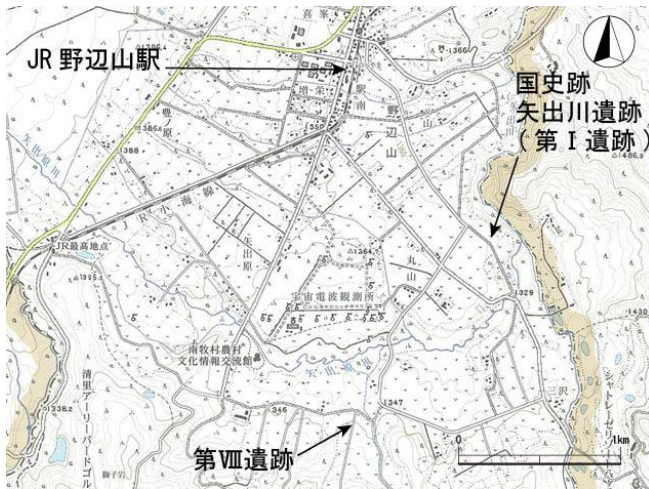


# 矢出川第Ⅷ遺跡の発掘調査

長野県埋蔵文化財センター



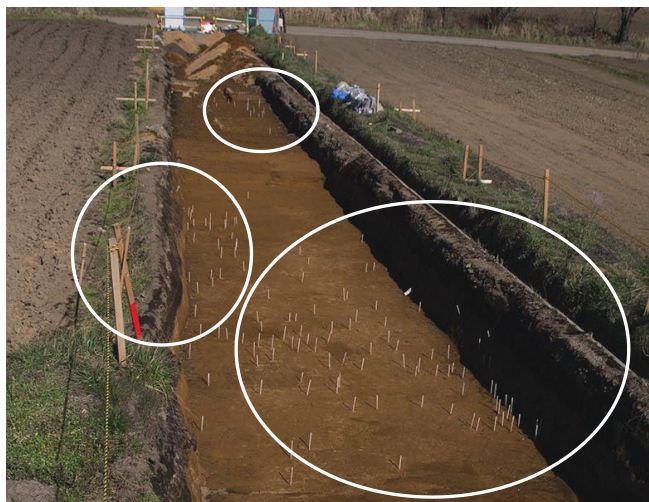
矢出川第Ⅷ遺跡の位置

## 矢出川第Ⅷ遺跡の位置

やでかわ  
矢出川第Ⅷ遺跡は、国史跡の矢出川遺跡（第Ⅰ遺跡）から約 1.7km 南西の飯盛山の麓の傾斜地に位置しています。

今回の調査では、農道の拡幅工事に伴い長さ 150m、幅 4m の範囲を調査しました。

過去に行われた同遺跡の調査では、<sup>いしやり</sup>石槍やナイフ形石器などが発見されています。



旧石器時代の遺物分布状況

## 旧石器時代の石器集中を発見

177 点の石器が発見されました。左の写真の白い棒は石器が出土した位置を示しますが、石器が集中して出土する範囲をブロックと呼びます。今回の調査では 3ヶ所（写真の線で囲んだ範囲）のブロックが確認されました。

確認されたブロックの内、近接する 2ヶ所（写真手前）では黒曜石が、少し離れたブロック（写真奥）では水晶が主な石器の材料として使われていました。



黒曜石製の石器

## 野辺山高原最古の石器群

石器には、ナイフ形石器や石刃、<sup>がた</sup>貝殻状刃器などの種類があります。石器の特徴から、これらは約 3 万年前の石器群と考えられます。これまで野辺山高原でみつがっている石器群で最も古い時期は約 2.2 万年前でしたが、今回の発見により、野辺山高原に刻まれた人びとの生活の痕跡は、約 3 万年前まで遡ることが分かりました。



水晶の石器

## 水晶製石器の発見

水晶の石器は、過去の調査でもみつっていますが、黒曜石ほど多く使われることはなく、数も少ししか出土していません。

大型の水晶製の石器がまとまって見つかったことは約3万年前の遺跡としては初めてで、希少石材の水晶を旧石器時代の人がどこの様に利用していたのかを研究する上で、重要な発見となりました。



発見された陥し穴

## 中世の<sup>おと</sup>陥し穴を調査

陥し穴が1基見つかりました。陥し穴は長さが3.7m、幅が1m、深さ1.2mと大型で、底からは、穴に落ちた獲物が逃げられないようにさした杭（逆茂木）の痕が7ヶ所見つかりました。さらにそのうちの2ヶ所には逆茂木の木材が残っていました。

遺跡で発見される陥し穴の時期は、縄文時代であることが多いのですが、今回見つかった遺構は、縄文時代に比べ大型であることや横断面形がV字状に掘り込まれていること、金属製の掘り具と思われる掘削痕があること、逆茂木を直接打ち込んでいることなどの特徴から中世に造られた陥し穴と予想されます。同様の特徴を持つ中世の陥し穴は山梨県北杜市や八ヶ岳西麓の茅野市や原村でもみつっています。



調査の様子